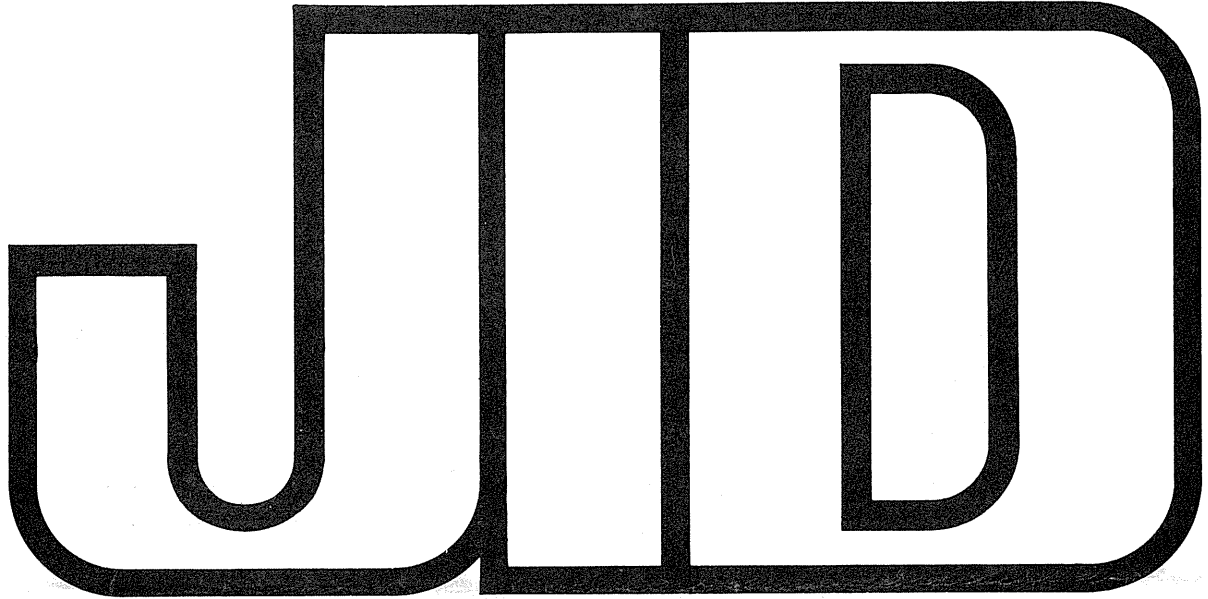




MARCH 1978

社団法人 日本インテリアデザイナー協会機関誌

目

次

I	20周年記念事業実行委員会テーマと実行委員さまる	1
II	会費改定関係資料(案)	2
III	なのしい語らい — たがいに誓う新年 — 53年度新年交礼会開かる —	5
IV	52・第6回理事会議事録	6
V	— 1978年米国インテリアデザイン視察旅行 —	7
VI	会員の移動	8
VII	寄贈・購入図書	8
VIII	事務局より	8

I 20周年記念事業実行委員会テーマと実行委員さまる

テーマ 生活とインテリア <デザインの役割>

実行委員 調整グループ ○渡辺 優, 富田卓司(関西), 松本政雄(中部), 坂本康四(九州)

事務グループ ○中村圭介, 尾上孝一, 山品 元

PRグループ ○三宅征郎, 川上玲子

事業グループ ○泉 修二, 垂見健三, 長岡貞夫, 森谷延周

注 1. 実行委員会は, グループ長と副グループ長で形成される。

2. ○印グループ長, その他副グループ長。

3. 関西, 九州, 中部の副グループ長は, 本部と事業支部のコミュニケーションの軸となる。

2月25日(土)第一回実行委員会が開催され, 上記のテーマが決定された。

創立20周年記念事業を成功させよう

II 会費改定関係資料（案）

○会費改定を必要とする理由の説明

序 社団法人本来の経営は会員によって維持されるものです。

社団法人は会費収入を主とした財源によって、組織の運営あるいは公益的事業をまかなう^(注)「基本事業部門」に団体の経営を依存しているため、税制上でも非課税部門として優遇されています。

当協会の財政や経理は、健全財政を建前としておこなわれていますが、上記の基本事業部門の収支のほか^(注)に「研究事業部門」の収支があつて、この2部門の収支から成立っていて、いずれもその年間の収入によって支出をまかなう方針で経理がおこなわれ、その決算は統合されています。

会の経営の中心となるものは「基本事業部門」であつてその経理状態が堅実であるかどうかは、当会が健全な団体としての存立に大きな関係があり、この両部門が両々相俟って均こうのとれた運営がおこなわれているのが好ましい経営の状態です。

注 基本事業とは基本的事業として原則的に毎年継続される事業。

収入 一会費・入会金・財産収入・雑収入・基本事業収入（機関紙、会員名簿、報酬基準等の頒布収入）寄付金等

支出 一機関紙・会員名簿等の刊行費・協会費・PR費・本支部費・管理費（人件費、通信費、交通費、家賃、消耗品費、退職積立金、慶弔費等）

研究事業とは原則的に年度毎に企画される事業、独立採算を建前とする。

収入 一事業収入（研究会などの会費、出版収入等）

支出 一事業支出（会場費、印刷費、通信費、委員会費等）

以下、会費改定を必要とする理由として、いろいろのデータを作成した。

1. （表1）は、最近4年間の基本事業部門の財政の推移であるが、本表によると前回の会費引上げ（¥120,000～20,000）直後の昭和49年度と50年度は、それぞれ剰余金があるが、51年度からは赤字に転じ、今年度の累積赤字は525万円を予想されるようになってきている。また、（表2）は、同期間における研究事業部門の事業費の収支であるがその累積赤字は353万円となっていて、表1と表2の赤字の合計額は878万円になります。

（表1）

単位：万円

年度	収 入	支 出	差 引 き	備 考
49	1,030	947	+ 83	注 昭和51年度は郵便料金の引上げあり（3月）
50	1,058	1,043	+ 15	
51	1,079	1,351	－272	
52	1,291	1,642	－351	
計	4,458	4,983	－525	

注 収入中の会費収入は純収入額による。

（表2） 研究事業部門

単位：万円

年度	事業収入	事業支出	差 引 き	備 考
49	490	505	－ 15	
50	538	675	－137	
51	105	213	－108	
52	129	222	－ 92	
計	1,262	1,615	－353	

上記の赤字の原因としては、諸物価、公共料金、人件費等の値上りも考えられますが、業務の拡大によるものです。

2. (表3)は"昭和52年度末収支決算"を予想したもので、決算総額は2,101万円となる見込です。表に示した収支にわたる各費目別のパーセンテージ中、支出面では前年度繰越負債10.1%, 事業費45%(機関紙26.6%) 会議費5.3%, 管理費36.8%(うち人件費24.9%), その他で、収支差引き次年度への繰越金は20万円程度と予想される状況である。なお、従来の繰越金の額を年度別にみると次の通りである。

昭和48年度	130万円	
// 49 //	459 //	
// 50 //	642 //	
// 51 //	468 //	
// 52 //	20 //	(予想)
		(08)(13)

注 繰越金の額は少なくとも200万円台になることが望ましい。

財その
産他

(表3)

収入	繰越金 (32.4)	会費(純収入) (50.3)	事業 (15.2)	
単位 百円	250	500	1,000	1,500
				2,000
				2,101
支出	負債 (10.1)	事業費(うち機関紙26.6) (45)	会議 (5.3)	管理費(うち人件費24.9) (36.8)

繰
越
金
の
他
(1.7)(1.1)

注 1. カッコ内数字はパーセンテージ

2. 基本事業費だけでみると 事業費負債+事業費+会議費: 52%
管理費負債+管理費+その他: 48% となる。

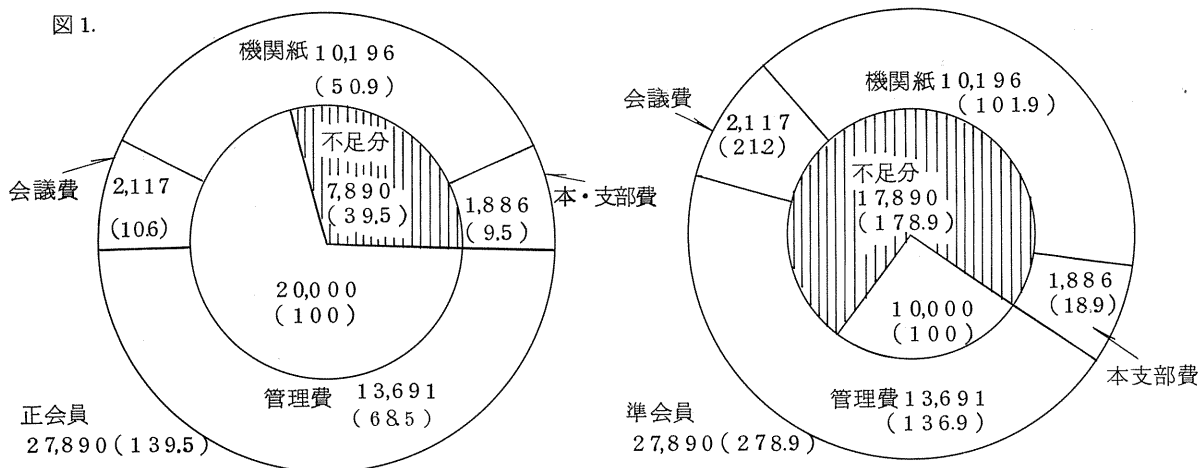
3. (表4)では"現在の会費額に対する会員1名当りの支出率"をみた。昭和52年度末の決算見込額中、本支部費 機関紙、会議費、管理費についてその支出率は、それぞれ正会員139.5%, 準会員278.9%, 賛助会員55.8% となった。また、これを円グラフにまとめると図1のとおりである。

(表4)

単位:円

会員別 と会費額	事業費		会議費	管理費	計	会員1名当り 支出率	差引額
	本・支部費	JID A・B (A5 B6)					
正20,000	1,886	10,196	2,117	13,691	27,890	139.5	-7,890
準10,000	1,886	10,196	2,117	13,691	27,890	278.9	-17,890
賛50,000	1,886	10,196	2,117	13,691	27,890	55.8	+22,110

図1.



4. 以上1～4の項を総括すると問題点としてあげられるものは、

- ① 事業部門における収支の不均衡が年毎に大きくなっている。
- ② 会費額に対する支出率が大きすぎる。
- ③ この趨勢から現会費額のまゝでの会員増は赤字減にはならない。

このような経営状態の是正（1.収益事業の実施，2.会費の引上げ）が急務であることを理解していただきたい。

今回の会費改定については、前述したような経緯を経て慎重検討の結果やむなく踏切った次第で、さらに昭和53年度は20周年を記念する職能団体らしい活動計画がすすめられている折でもあり、実状ご了承の上、今後の当会の健全な運営のために会員各位のご了承をお願いする次第です。

一 参 考 資 料 一

今年度は、前年度からの繰越金468万円をすべて消費し、極度の消費節約と相俟って辛うじて持ちこたえたといえる。次にあげる昭和53年度の「基本事業収支予算書（概算案）」は剰余金として200万円台を保つことを考慮して作成したものです。

昭和53年度基本事業収支予算概算書（案） 53・2

（財務特別委員会答申書より作成）

年間基本収入

単位：万円

区 分	摘 要	金 額
年 正 会 員	現350名+20名-5名=365名 1人3.6	1,314
会 準 会 員	現90名+5名-5名=90名 2.0	180
費 賛 助 会 員	現82社+3社=85社 6.0	510
入 正 会 員	3万円×15名 1万円×5名	50
会 金 準 会 員	2万円×5名	10
基 本 事 業 収 益	カタログ集出版純益金，機関誌売上げ	100
雑 収 入	報酬基準売上げ，寄付金，銀行利息ほか	10
計		2,174

年間基本支出

単位：万円

区 分	摘 要	金 額
会 議 費	総会・理事会・一般会議（支出総額の約7%）	145
管 理 費	人件費，専従役員1名，事務局2名，給与，アルバイト料	660
〃	その他，家賃，切手，電話ほか	334
〃 小計	（支出総額の約45%）	994
基 本 事 業 費	機関誌，会員名簿	604
〃	加入団体費，IFI=20万 商施連=20万ほか	48
〃	事業支部補助，大阪事務局50万，その他支部20万	70
〃 小計	（支出総額の約34%）	722
退 職 積 立 金	専従役員，事務局員給与1ヶ月分（〃 〃 2%）	33
・ 予 備 金	（剰余金）（〃 〃 13%）	280
計		2,174

この基本事業収支予算に研究事業部門の収支予算（含20周年記念事業予算）が加わったものが「昭和53年度の収支予算（案）」となりますが、今後昭和53年度以降の決算において、剰余金が280万を下回ることはないようによまず昭和53年度の事業が運営されることが肝要です。

関係諸団体の現行会費

（カッコ内数字は会員数） 単位：円

団 体 名	正 会 員	準 会 員	賛 助 会 員	
(社) 日本インダストリアルデザイナー 協会	(5 1 2) 3 6,0 0 0	(6 5) 1 8,0 0 0	一口 (9 4) 1 0 0,0 0 0	
(社) 日本クラフトデザイン協会	(1 5 5) 2 0,0 0 0	0 1 0,0 0 0	6,0 0 0 5 0,0 0 0	個人 (7) 法人 (2 0)
日本パッケージデザイン協会	(2) 2 0,0 0 0	(2 4 1) 2 0,0 0 0	(6 7) 6 0,0 0 0	
(社) 日本店舗設計家協会	(4 7 0) 3 2,0 0 0	(2 0 0) 2 5,0 0 0	5 0,0 0 0 1 0 0,0 0 0	(1 5 0) 特別 (1 0)
(社) 日本建築家協会	(1,1 0 8) 7 0,0 0 0	(5) 1 0,0 0 0	協力会員(1 8) 5 0,0 0 0	
日本ディスプレイデザイン協会	(2 7 2) 2 4,0 0 0		一口 (8 0) 3 0,0 0 0	
日本インテリア設計家協会	(3 5 0) 7 4,0 0 0	会友 (7 0) 1 2,0 0 0	一口 1 0 0,0 0 0	

Ⅲ たのしい語らい — たがいに誓う新年

— 53年新年交礼会開かる —

1月23日、例年のとおり農林年金会館において開催。当協会の創立20周年記念の年ということで、70余名に上る出席会員の意気も盛ん。型どおり理事長の挨拶から次第に宴はもり上った。新年プレゼントの交換 — プレゼント片手に自己紹介 — 自慢のノドの披露 — など、エレクトーンの美しいバックミュージックとともに楽しいひと時はすぎた。プレゼントに当たらない不幸者？の最後のチャンスの総当りジャンケン大会とともに会は終りに近づき、勝瀬大先輩のシメの大声で20周年記念事業の成功が祈念された。（文責 尾上）

Ⅳ 5 2 ・ 第 6 回 理 事 会 議 事 録

1. 日 時 昭和53年1月21日(土) 1.30～9.00 PM (泊)
〃 1月22日(日) 9.00～12.00 AM
2. 場 所 東京郵政会館
3. 出 席 者 名誉理事 岩 瀬 要 三(21日のみ)
理事長 白石勝彦 副理事長 渡辺 優
理 事 岡村 実, 川崎 浩, 尾上孝一, 坂本康四, 垂見健三, 富田卓司, 中村圭介, 山口勇次郎。(10名)
(委任状) 榎田 均, 狩野雄一, 島崎 信, 長 大 作, 松本政雄。(5名)
監 事 樋口 治。 委任状 渡辺 力。
事務局長 工藤広忠。

なお、本理事会においては下記のとおり昭和53年度からの理事就任予定者5名を加えて、第1日は全員の懇談の形式ですすめることとして各案件の懇談をおこなった。理事予定者は議決権はないが決定権としてゆくことになった。

理事予定者 泉 修二, 川上玲子, 長岡貞夫, 三宅征郎, 森谷延周。(5名)

4. 議 事

(I) 報 告 事 項

1. 会 計 報 告(事務局長)

本日現在の未収会費・正会員76名, 準会員27名, 賛助会員19社で金額にして274万円, このほかに前年度から繰越の未収会費74万円計348万円であって, 本年度末の財政に及ぼす影響は大きい。と報告, とりあえず早急に未納者リストを作成して役員に配付して解決に努力することになった。(諒解事項)

2. 事 業 報 告

1) 選考委員会 来年度委員選挙をおこなう(諒解事項)現委員の任期は53年度でされる。

2) 財政特別委員会(中村委員) 財政の答申案について説明あり, 会費の引上げに関する資料を事務局で作成することとする。

3) 総務委員会(尾上委員長) 新年交礼会に賛助会員の出席多数で盛況裡に終わったが, これを期として賛助会員の懇話会と20周年事業とをカラミあわせてゆきたい。

4) 会報委員会(泉委員長) №80(タヘストリー特集), №81(住いの記号学特集)について報告あり。

また, 53年度からは会報の名称を(インテリアデザイン)と改め, 季刊発行にする。(諒承事項)

5) 渉外委員会(三宅委員長) I F I ワシントン会議について報告, 今回からは加盟団体3名以内の代議員招待のことがきまる。デザイン研修は成功裡に終わった。近く産デ振から報告書がでる。

6) 特別事業準備委員会 実行委員会組織案について考慮中。本日の提出資料20周年事業組織(案)は保留となった。

7) 関東事業支部 さきに千葉において実施した"住い方アンケート調査"結果の集計中で, この発表方法については検討している。

8) 関西事業支部 新年会・住環境アンケート・国際見本市8号館・京都クラフト会議等について報告あり。

9) 九州事業支部 1月16日に総会を兼ねて新年会を開催した。

10) 事務局長の後任候補として渡辺力氏推せんの山品元氏(正会員)について話し合いが進められている。

(II) 議 事

- 1) 役員選挙について 関西事業支部から理事と監事について部内での調整申出があり、投票順位から差支えない調整につき諒承される。(確認事項)
- 2) 臨時総会の開催について 3月27日開催が決定しているが、役員承認のみをとりあげた総会開催は今回がはじめてのことなので、会員にその主旨を徹底させる。(確認事項)

1. 議 事(第2日)

- 1) 会費の引上げについて 事務局長交てつものことから検討された。関連事項(払込方法、会員倍增運動、賛助会員と法人会員)などについて論議されたが、財政特別委員会の答申案どおり年会費として正会員36,000円、準会員20,000円、賛助会員1口60,000円と決定した(決議事項)。
 - 2) 事務局長後任人事について、できるだけ週5日勤務制を期待したい(諒解事項)。
 - 3) 役員人事について 理事長と副理事長は臨時総会で決定する。その他副理事長は2人制にしてはとの話題がでた。
 - 4) インテリア産業協議会の発足について2月8日の発会式には理事長が個人の資格で出席する。
- (注)(1) 議事(1)中の財政特別委員会答申案は本号に掲載した。
- (2) 第一日終了後、渡辺・泉氏を除いた全員が宿泊、今回の議題などについてフリーな話し合いがおこなわれ、議論百出、払曉におよんだ。

V - 1978年米国インテリアデザイン視察旅行-

- 参加申込〆切りは、3月31日です。

この旅行の主目的であるワシントンにおける1978IFI国際会議の開催要領は次のとおりです。

- ◎ テ ー マ 行政とデザイン活動
- ◎ 会 場 アメリカ政府の集合庁舎で開催されるが、この中で、日によって会場が変わる。
- ◎ プログラム (ASID立案)
 - 見 学 先 スミソニアン研究所、フレア美術館、ホワイトハウス、レンウィック美術館、航空宇宙館、ワシントン市内(終日バス)、国務省講堂
 - 作品紹介 合衆国行政改革計画、在外大使館および合衆国政府事務所の公的デザイン、博物館のデザイン保持と表示の義務、政府病院および保健施設のインテリアデザイン、インテリアデザインにおける合衆国政府の役割、Historic Preservationにおける合衆国政府の役割
 - 映 画 建国200年のアメリカのデザイン
 - スライド IFI会員団体によって行われた各国における政府建物のインテリア
 - パネルディスカッション 建築基準法に対する政府の規定について

注1. これまでのテーマは、"生活環境(1974)" "レジャーのためのデザイン(1976)"です。

2. ASIDからの便宜供与(レストラン、催し物、参加競技など)

Ⅵ 会 員 移 動

今村 俊章	事務所	〒814	福岡市西区鳥飼5-2-18グリーンマンション鳥飼102号	(092)851-1221
笹子 幸治	事務所	〒101	千代田区神田駿河台1-6主婦の友商事(株)内 (有)多摩室内デザイン	(03)294-8917
新庄 晃	自 宅	〒070	旭川市神居町神岡206-18	
黒沢三智夫	自 宅	〒214	川崎市多摩区生田字餅坂7298-1百合ヶ丘ヒルズ604	
木村戦太郎	自 宅	〒157	世田谷区上祖師谷6-24-22	(03)309-3955
中村 隆一	自 宅	〒617	京都府向日市上植野町堂の前5-3イトーピア126号	(075)933-8497
内堀 繁生	所在地	〒160	東京都新宿区西新宿2-1-1新宿三井ビル 鹿島建設株式会社 建築設計本部	(03)344-2111
新庄谷範貢	勤務先	〒542	大阪市南区日本橋3-63 (株)中川構装社	(06)632-1931~4
鈴木恭二郎	事務所	〒100	千代田区丸の内2-3-2郵船ビル3F 協和資材株式会社	(03)284-0271
加納 士雄	勤務先	〒273	千葉県船橋市本町7-1 (株)船橋東武・販売促進部装飾課	(0474)25-2211 (内 216)
	自 宅	〒182	東京都狛江市和泉518-13	(03)488-5055
吉良 裕信	事務所	〒151	渋谷区代々木2-20-14第1幸新ビル キャピタルトレイド内 吉良デザイン室	(03)374-1331

会 員 だ よ り

この度、桂田 温氏が「インテリアデザイン桂田」の第一線を退かれることになり、後をそのまま及川洋功氏が引受けることになりました。なお、桂田氏は顧問として活躍されます。

Ⅶ 寄贈・購入図書

編 著 者	資 料 名	発行年月	発行者(・印寄贈者)
(株)日本家具新聞社	「家具木工用樹種アラカルト」	52.12	・(株)日本家具新聞社(家具新報)
日本デザインコミッティー	「デザインの軌跡」	53.4	(株)商店建築社 寄贈・長大作
※この本の入手ご希望の方は長まで連絡くださいとの事です。			
工業所有権法研究会編	「工業所有権法質疑応答集」	53.1	第一法規

Ⅷ 事務局より

1. 年度末も近づきましたので会費未納の方は至急にご入金下さい。

なお、銀行送金の場合は氏名を明らかにして下さい。

2. 「世界伝統家具設計図集」余部僅少です。

ご入用の向は至急お申込み下さい。

機関紙	J I D No81-D
発行人	白石 勝彦
編集人	J I D総務委員会・事務局
発行所	社団法人 日本インテリアデザイナー 協会
住 所	〒150 東京都渋谷区神宮前2-3-16 建築家会館3階
電 話	(03)403-3649
発行日	昭和53年3月1日
印刷所	広洋印刷株式会社
定 価	100円
振 替	東京・76389